

高槻の地名にもなった寺

# 大／阪／の／建／築／まちあるき——「みしま野」

なんざんはんやいんあんこうじ  
南山般若院安岡寺



本堂正面



総門を入口から見る



西山門から境内を望む



参道の緩やかな石畳と奥に延びる石段

所在地： 高槻市浦堂本町 14-1  
 最寄駅： JR 高槻駅北口から市営バス<上の口>行「浦堂」下車 徒歩約 15 分  
 TEL： 072-687-0727  
 問合先： 安岡寺まで  
 見学： 境内は自由です。但し大勢で見学される場合には寺務所へお声掛けを。日曜・祝日は国指定重要文化財木造千手観音坐像が閉扉されて見られません

街の名前は、それぞれに由来を持っている場合が多い。城下町には「大手町」と言う町名が多く、「田中町」や「畑田」は元々畑であった場所に付けられている事が多い。神社仏閣に因んだ名称も多く見られ、「春日」や「別院町」はその代表例であろう。

高槻市の北部にも「安岡寺町」と呼ばれる新興住宅地がある。この街の南側に接して南山般若院安岡寺の敷地がある。安岡寺は一つの小高い丘の上に造られた様にも見える天台宗系の単立寺院である。本尊は如意輪観音。宝亀6年(775年)に、光仁天皇の子で桓武天皇の兄とされている開城皇子が創建したと伝えられている。本堂背後の丘に開城皇子の弟子開智が一石に一字づつ大般若経600巻を書写し、安置した。これ以降、安岡寺は般若院とも称されるようになった。戦国時代には一旦荒廢の憂目を見るが、江戸時代の寛文年間(17世紀後半)に良盛が再興し、四つの塔頭を数える程に隆盛した。明治時代に廃仏毀釈の影響を受けて、現在では本堂・鐘楼・般若塚・観音堂を残すのみとなっている。

境内は緩やかな石畳の坂道と石段で造られた参道を上り切った場所にある。参道の入口には「総門」と呼ばれている山門があり、阿吽を表した二体の木造仁王像が迎えてくれる。境内には石畳の参道の他に西山門と呼ばれる入口もあり、近くに駐車場も完備されているので車で参詣する事も可能であるが、徒歩による参詣がこの寺院を見るには望ましい。

本堂・鐘楼・総門は、赤い顔料系塗料で彩色されている。色合から現状では弁柄(ベンガラ)を塗装し、細部には最近の塗料と思いき色彩の塗装が施されている。

本堂は平屋で本瓦葺き。屋根の勾配は緩やかで、反り(そり)や起り(むくり)も無い。石段を上り詰めて本堂を見上げると、扁平で懐まじやかな印象の屋根が見える。拜殿の様に付けられた切妻型の庇屋根が本堂の正面に付けられており、妻側部分が正面を向いているので、真っすぐ伸び、朱で彩色された破風板が、本堂の正面意匠を特徴付けている。(神保 勲)